

# 子育て支援専門委員会 思春期保健対策 WG

## 目 次

### 子育て支援専門委員会「思春期保健対策 WG」報告書

- I. は じ め に
- II. リーフレットの作成
- III. 中学校における性教育に関する  
アンケート集計結果
- IV. ま と め

# 子育て支援専門委員会 思春期保健対策 WG

(平成 20 年度)

## 子育て支援専門委員会「思春期保健対策 WG」報告書

広島県地域保健対策協議会 子育て支援専門委員会 思春期保健対策 WG

WG 長 吉田 信隆

### I. はじめに

広島市の平成 18 年度の 10 代の人工妊娠中絶率は 10.3 で、全国の 8.7 よりも高い状況にある。国においても、母子保健の国民運動計画である「健やか親子 21」(平成 13～22 年度)で 10 代の人工妊娠中絶実施率や、性感染症罹患率、思春期やせ症を減少させることを目標としており、平成 16 年に閣議決定された少子化対策大綱においても、思春期保健対策を推進させることとしている。

以上のことから、平成 19 年度に思春期保健対策 WG を設置し、県内産婦人科における 10 代の人工妊娠中絶の実態調査を行い、その結果から「産婦人科受診者における性の知識の普及が必要である」と認識された為、本年度は医療機関用のリーフレットの作成と中学校における性教育の実態調査を行った。

### II. リーフレットの作成

様々な意見が噴出したが、最終的には以下の目次のごとくの体裁をとり、広島県地域保健対策協議会名で県内の産婦人科に配布した。また非常に好評であり、全国からの引き合いもあった。

このリーフレットのテーマは、『あなたを守るのはあなたです(あなたへのメッセージ)』で、内容構成は、次のとおりである。

#### 1. あなたへのメッセージ:

自分を好きになれるようなメッセージ文(松田文雄委員)

#### 2. あなたのカラダ どうして月経が大切な?:

10 歳を過ぎると、体内でホルモンが働くようになります。

#### 3. SEX をするなら知っていて欲しいこと:

① SEX をすればあなたのおなかに赤ちゃんが出来るかもしれない。

② SEX で病気をうつしたり、うつされたりするかも。

#### 4. あなたにできること:

① 妊娠しないために……避妊できるピルを飲む。

② 病気にならないために: 正しくコンドームを使う。

③ もしも避妊せずに SEX したら 緊急避妊ピルを知っていますか?

#### 5. 性感染症(STI)について知っておくこと:

① こんな人に増えています。

② 性感染症(STI) かもしれない、感染したかも……こんな症状があります。

③ あなたまたは彼に性感染症(STI) の症状があるとき。

### III. 中学校における性教育に関するアンケート集計結果

平成 20 年 10 月に広島県内の全ての中学校(278 校)に対し郵送自記式にてアンケート調査を行った。回答数は 131 校、47.1%であった。この種のアンケートでの回収率としては非常に良かったと考えられた。

#### 1 学校の属性など

(1) 学校の種類: 男女共学が 122/131 校(93.1%), 男子校が 2/131 校(1.5%), 女子校が 4/131 校(3.1%)であった。中学校では男女共学が 90%以上を占めている。

(2) 学校の規模: 最少 10 人、最大 896 人と大きなばらつきがあった。その中でも最も多かったのは生徒数 500 人以上 34/131 校(26.0%)で、300～399 人 24/131 校(18.3%), 200～299 人 14/131 校(10.7%)の順であった。比較的人数の大きな中学校(300 人以上: 70/131 校 [53.4%])

が半数以上を占めていた。

- (3) 養護教諭の数：1人が114/131校（87.0％）で、2人以上は11/131校（8.4％）。大規模校でも養護教諭は少人数での対応が求められている。小規模校では他校との兼務で常勤の養護教諭がないところもあった。

## 2 性教育について

- (1) 性教育を実施している学校：110/131校（84.0％）であり、性教育を実施していないのは14/131校（10.7％）であった。
- (2) 性教育の実施者：保健体育科教諭が104/110（94.5％）とその大部分を担っており、担任16/110（14.5％）であり、養護教諭は10/110（9.1％）にすぎなかった。文部省の学習指導要領に沿った教育の一貫と考えられた。
- (3) 保健指導としての性教育：保健学習としての性教育以外に保健指導としての性教育を行っている学校は41/131校（31.3％）で、約3割に留まっている。

3)-1 保健指導としての性教育の取り組みについて：外部講師による性をテーマとした講演会24/41校（58.5％）が最も多く、乳幼児とのふれあい体験学習10/41校（24.4％）や個別指導などが行われている。外部講師の講演は全校では24/131校（18.3％）に対し行われている。

3)-2 外部講師の職種：助産師10/24校（41.7％）、産婦人科医9/24校（37.5％）と、この2つの職種で約80％を占めた。次いで、保健師が3/24校（12.5％）、他に、他校の養護教諭や、医師、大学教諭等を合わせて7/24校（29.2％）であった。外部講師としては、産婦人科医と助産師に依存する可能性が高いことが示されている。

## (4) 保健室の利用状況など

① 保健室を訪れる人数：10～19人が33/131校（25.2％）と最も多く、次いで20～29人が25/131校（19.1％）、5～9人21/131校（16.0％）と続いた。中には80人も訪れる学校もあり、50人以上が訪れる学校も3/131校（2.3％）あった。あまりに多くの人数が訪問すると、少人数の養護教諭では対応困難になることが容易に想像できる。

② 保健室での生徒からの相談内容：体の発育

100/131校（76.3％）、恋愛92/131校（70.2％）、月経91/131校（69.5％）についての相談がほぼ同頻度に多く、以下は性行為について8/131校（6.1％）、生殖器など5/131校（3.8％）、出会い系サイト4/131校（3.1％）と激減するが、これら少数の相談内容の対応についてはやはり個別対応が必要で、養護教諭の充実と研修が必要であると考えられた。

③ 保健室で対応に苦慮した事例：筆記式であるが、出会い系サイト、性行為、性感染症、性的虐待など、非常に微妙な問を含んでいるため、やはり「対応」への研修が必要であることが浮き彫りとなっている。

④ 保健室での相談内容に対する対応：解決策を検討する際の相手として、本人・養護教諭の他に、担任が106/131校（80.9％）で最も多く、養護教諭88/131校（67.2％）、保護者57/131校（43.5％）、スクールカウンセラー42/131校（32.1％）、校長34/131校（26.0％）、教頭32/131校（24.4％）と続き、産婦人科医は8/131校（6.1％）と少数であった。

⑤ 性教育に対する年間計画の立案について：養護教諭が性教育の立案に参画しているのは35/131校（26.7％）のみであり、性教育の実施者が保健体育科教諭のためこのような結果となったと考えられ、保健体育科教諭と養護教諭の連携が望まれる。

⑥ 学校内で性教育をする時の課題について：今までの結果からもわかるように、養護教諭が学校内で活動する時間的余裕がない84/131校（64.1％）、校内の指導方針が定まっていない66/131校（50.4％）、保健室を空けられない51/131校（38.9％）と養護教諭が多忙を極めている様子が伺われた。

(5) 今後の中学生に対する性教育の課題について 生徒の知識レベルに差があるため、集団指導では限界がある82/131校（62.6％）と、校内での性教育の方針が定まっていない71/131校（54.2％）で、この2項目が半数を超え、メンタル面での指導が不十分・校内での連携が不十分、との回答がいずれも40/131校（30.5％）であった。続いて個別問題では、学校内での対応が困難や限界あり35/131校（26.7％）、保護者との連携が不十分20/131校（15.3％）で、困

難な問題に対しては個別指導や保護者との連携が欠かせないことが浮き彫りになった。

(6) 学校内における性教育に対する効果的な対策について

職員向けの研修会の実施 70/131 校 (53.4%)、命の大切さを学ぶ機会 (乳幼児とのふれあいなど) 69/131 校 (52.7%) が 50% を超えて要望があり、次いで、外部専門講師による講演会 61/131 校 (46.6%) や生徒の考える力を育む為のグループワーク 44/131 校 (33.6%) などでも要望が高かった。

(7) 学校外における性教育に対する効果的な対策について

家庭での情操教育が 73/131 校 (55.7%)、保護者への教育が 69/131 校 (52.7%) で、いずれも 50% を超えており家庭教育がいかに大切かを痛感している結果であった。その他 24 時間相談ダイヤル 58/131 校 (44.3%) も高い要望があり、ピアカウンセリング 30/131 校 (22.9%) や産婦人科での個別指導 15/131 校 (11.5%) もこれに次いだ。やはり性教育の原点は家庭にあると考えられていることがはっきりとした。

(8) 生徒から「妊娠した」との相談があった場合の学校での相談体制

103/131 校 (78.6%) から記述式の回答が寄せられ、多くは「管理職、生徒指導主事、担任、養護教諭が連携して話し合う」ことで対処されている。このことは集団指導の体制の縮図とも言える。個人対応では責任問題が大きく、集団指導体制を作ることによって全体の意見をまとめて行く方向に流れていることを伺わせるものであった。

(9) 10 代の望まない妊娠や人工妊娠中絶を防ぐ為の対策について

113/131 校 (86.3%) から記述式の回答が寄せられ、この問題についての関心の高さを物語るものであった。様々な意見が寄せられたが、社会全体のモラルの低下を嘆くとともに、やはり正しい性の知識を知らせることが必要であるとの意見も多かった。

(10) その他中学生の性に関する問題について

73/131 校 (55.7%) から記述式の回答が寄せられた。(9)で示された内容と同様のことであったが、中学生では個人差が未だ大きく性教育の十分な指導が困難なことにも増して、全国統一試験などの学力の競争激化によって十分な指導体制が組めない苦悩も読み取れた。

#### IV. ま と め

10 代の人工妊娠中絶の減少を目標にして委員会を開催し、アンケートをとり、リーフレットを作成してきた。人工妊娠中絶が目的で産婦人科を来院した 10 代の女性に対する指導目的で作成したリーフレットは、内容的にもソフトで、各地で好評を得ており、全国規模の性教育の学会あるいは広島県警などからも配布の要望があった。

中学校へのアンケート結果からは養護教諭への相談が多岐に渡っており、かなりの大規模な中学校でも 1 名の配置のため、十分な相談に応じきれない実態が表されていたと考えられた。また中学校の現場からは学校内の教育のみでなく家庭内の教育が大切であることが浮き彫りとなり、そのためには保護者に対する教育が必要であるとの認識が強く出ていた。このことにより、性教育は家庭と学校が協力しあうて行くものであり、そのためには保護者も教育者も新しくしかも十分な知識が必要であることを再認識させられた。すなわち保護者と教育者が一体となった会で議論を交わらせることが必要であると考えられた。

最後に、委員間で議論になったことについて述べる。

10 代の若者の性行動が最も問題な点は、あふれかえる誤った知識をマスコミや雑誌などから得る事で、それを真実と考え行動することにある。しかも教育の現場では保健体育での体の仕組みなどの表面的なことは教育されるものの、どの点に問題があるのかを十分には伝え切れていないようである。若者の性行動を誤らせないためには、「誤った性の知識を廃し正しい性の知識を伝える」ことこそが大切であるとの結論に達した。

## 中学校における性教育に関するアンケート

該当する項目の番号に○を付けるか、( )内に該当することを記入してください。

・ 貴校の全校生徒数 (男: \_\_\_\_\_ 人、 女: \_\_\_\_\_ 人) 貴校の養護教諭の数 : ( \_\_\_\_\_ 人)

**問 1** 性教育を実施されていますか。

- 1 はい 2 いいえ

**問 2** 主に誰が実施しておられますか。

- 1 担任 2 保健体育科教諭 3 養護教諭 4 その他 ( \_\_\_\_\_ )

**問 3** 保健学習としての性教育以外に、保健指導としての性教育を実施されていますか。

- 1 はい 2 いいえ

**問 4** 問 3 で「はい」と回答された方にお伺いします。それはどんな取組ですか。

- 1 外部講師による性をテーマとした講演会  
2 乳幼児とのふれあい体験学習  
3 その他 ( \_\_\_\_\_ )

**問 5** 問 4 で「1」と回答された方にお伺いします。講師は誰(職種)ですか。

- 1 産婦人科医 2 学校医 3 スクールカウンセラー 4 保健センター医師  
5 助産師 6 保健師 7 その他 ( \_\_\_\_\_ )

**問 6-1** 保健室を訪れる生徒は1日平均何人ぐらいですか。

- 1 男子 ( \_\_\_\_\_ 人) 2 女子 ( \_\_\_\_\_ 人)

**問 6-2** 保健室で受ける生徒からの相談内容で、多いものを3つ選んでください。

- 1 体の発育 2 月経 3 生殖器・生殖機能 4 自慰 5 性行為 6 妊娠 7 避妊法  
8 緊急避妊 9 性感染症 10 出会い系サイト 11 恋愛 12 その他 ( \_\_\_\_\_ )

**問 6-3** 保健室で生徒から受けた相談で、対応に苦慮した事例があれば記入してください。

[ \_\_\_\_\_ ]

**問 6-4** 保健室で生徒から相談を受けた時に、本人と誰とで解決策等を検討しましたか。(複数回答)

- 1 保護者 2 担任 3 養護教諭 4 教頭 5 校長 6 学校医 7 産婦人科医  
8 スクールカウンセラー 9 その他 ( \_\_\_\_\_ )

**問 6-5** 学校内で性教育に関する年間計画を立てる際、養護教諭は参加していますか。

- 1 はい 2 いいえ

**問 6-6** 学校内で養護教諭が性教育を実施する際の課題は何ですか。(複数回答)

- 1 保健室を空けられない。  
2 校内での指導方針が定まっていない。  
3 十分な時間確保が困難。  
4 子どもたちの実態に即した専門的知識に乏しい。  
5 その他 ( \_\_\_\_\_ )

**問7** 中学生への性教育の課題についてあてはまるものを下記からお選びください。(複数回答)

- 1 生徒の知識レベルに差があるため、集団指導では限界がある。
- 2 メンタル面での指導が不十分。
- 3 学級担任、保健主事、保健体育科教諭、養護教諭など学校内の職員の連携が不十分。
- 4 校内での性教育の方針が定まっていない。
- 5 保護者との連携が不十分。
- 6 個別の問題が複雑・多岐に渡るため、学校内での問題解決には限界がある。
- 7 その他 ( )

**問8** 問7に対して、学校内で取り組む効果的な対策は何だと思われますか。(複数回答)

- 1 外部専門講師による講演会
- 2 「命の大切さ」などを学ぶ機会(乳幼児とのふれあい体験等)の提供
- 3 生徒の考える力を育むためのグループワーク等
- 4 職員向けの研修会の実施
- 5 その他 ( )

**問9** 問7に対して、学校外で取り組む効果的な対策は何だと思われますか。(複数回答)

- 1 生徒がいつでも相談できる24時間相談ダイヤル等相談窓口の設置
- 2 家庭での情操教育
- 3 保護者への教育
- 4 産婦人科での個別指導
- 5 ピアカウンセリング
- 6 その他 ( )

**問10** 生徒から「妊娠した」との相談があった場合、学校内での相談体制はどのようになっていますか。

[ ]

**問11** 10代の望まない妊娠や人工妊娠中絶を防ぐためには、どのような対策が必要だと思われますか。

[ ]

**問12** その他、中学生の性に関する問題についてのご意見をお聞かせください。

[ ]

＝ご協力ありがとうございました。＝

## 中学校における性教育に関するアンケート集計結果

【調査期間】 平成20年12月12日～平成20年12月26日  
(期間を過ぎてからの回答も受理)

【調査対象】 県内の中学校

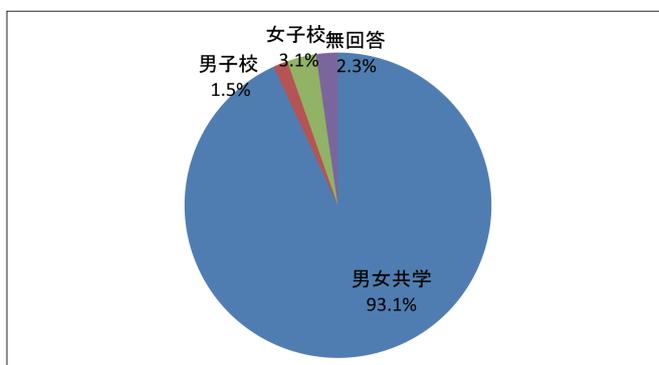
【調査方法】 郵送自記式

調査対象数	回答数	回収率
278	131	47.1%

### 【学校の属性】

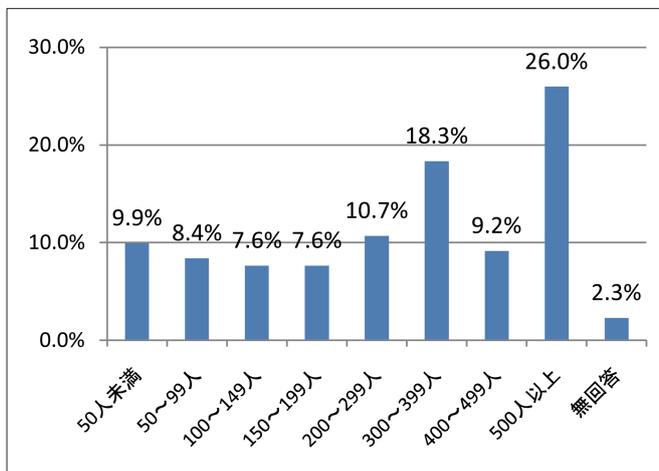
#### ○ 学校の種類

区 分	回答数	割合
男女共学	122	93.1%
男子校	2	1.5%
女子校	4	3.1%
無回答	3	2.3%
合 計	131	



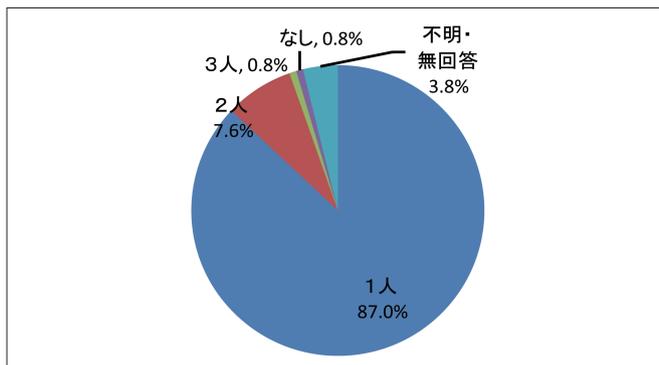
#### ○ 学校の規模 (生徒数)

区 分	回答数	割合
50人未満 (最小10人)	13	9.9%
50～99人	11	8.4%
100～149人	10	7.6%
150～199人	10	7.6%
200～299人	14	10.7%
300～399人	24	18.3%
400～499人	12	9.2%
500人以上 (最大896人)	34	26.0%
無回答	3	2.3%
合 計	131	



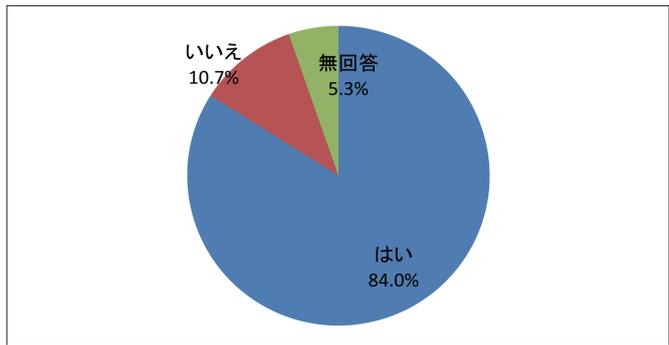
#### ○ 養護教諭の数

区 分	回答数	割合
1人 (生徒数91人)	114	87.0%
2人	10	7.6%
3人	1	0.8%
なし	1	0.8%
不明・無回答	5	3.8%
合 計	131	



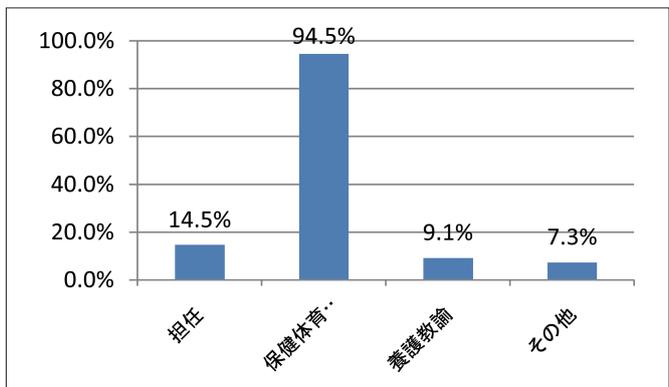
問1 性教育を実施されていますか。

区分	回答数	割合
はい	110	84.0%
いいえ	14	10.7%
無回答	7	5.3%
合計	131	



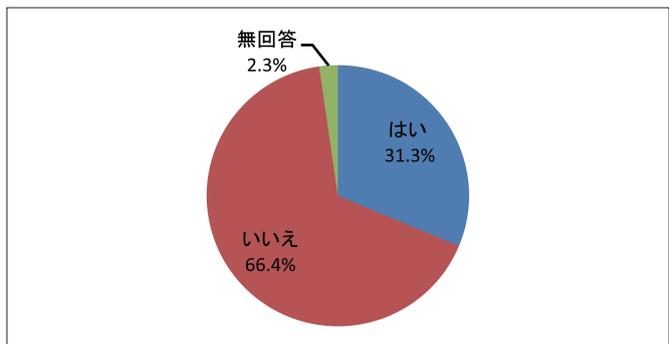
問2 主に誰が実施しておられますか。(重複回答) n = 110

区分	回答数	割合
担任	16	14.5%
保健体育科教諭	104	94.5%
養護教諭	10	9.1%
その他	8	7.3%



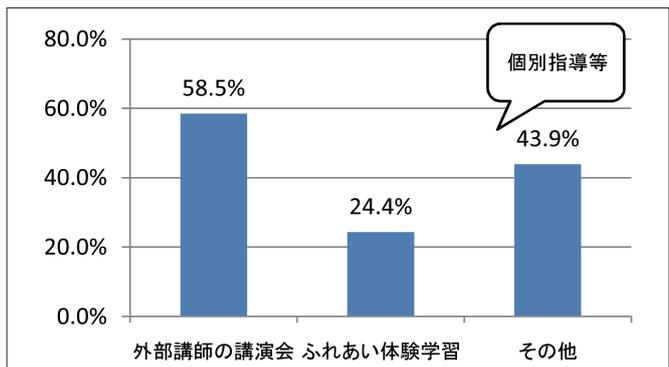
問3 保健学習としての性教育以外に保健指導としての性教育を実施されていますか。

区分	回答数	割合
はい	41	31.3%
いいえ	87	66.4%
無回答	3	2.3%
合計	131	



問4 問3で「はい」と回答された方にお伺いします。それはどんな取組ですか。(重複回答) n = 41

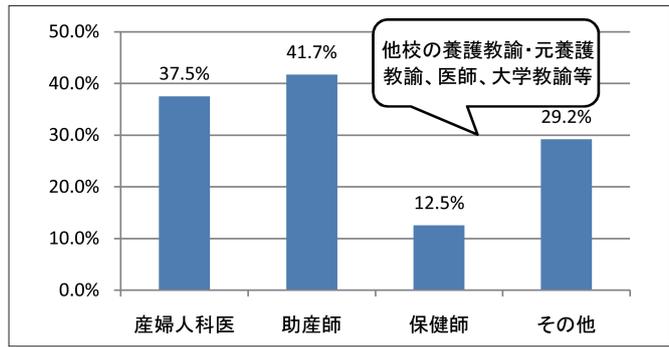
区分	回答数	割合
外部講師による性をテーマとした講演会	24	58.5%
乳幼児とのふれあい体験学習	10	24.4%
その他	18	43.9%



問5 問4で「1」と回答された方にお伺いします。講師は誰（職種）ですか。

n = 24

区分	回答数	割合
産婦人科医	9	37.5%
学校医	0	0.0%
スクールカウンセラー	0	0.0%
保健センター医師	0	0.0%
助産師	10	41.7%
保健師	3	12.5%
その他	7	29.2%



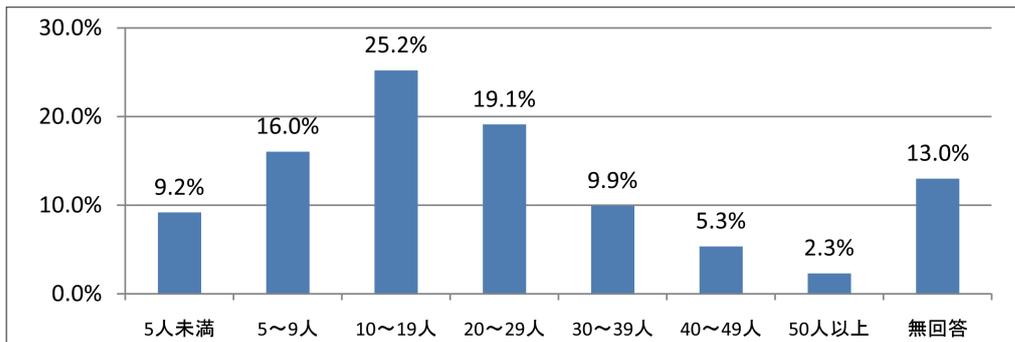
問6-1 保健室を訪れる生徒は1日平均何人ぐらいですか。

問6-2 保健室で受ける生徒からの相談内容で、多いものを3つ選んでください。

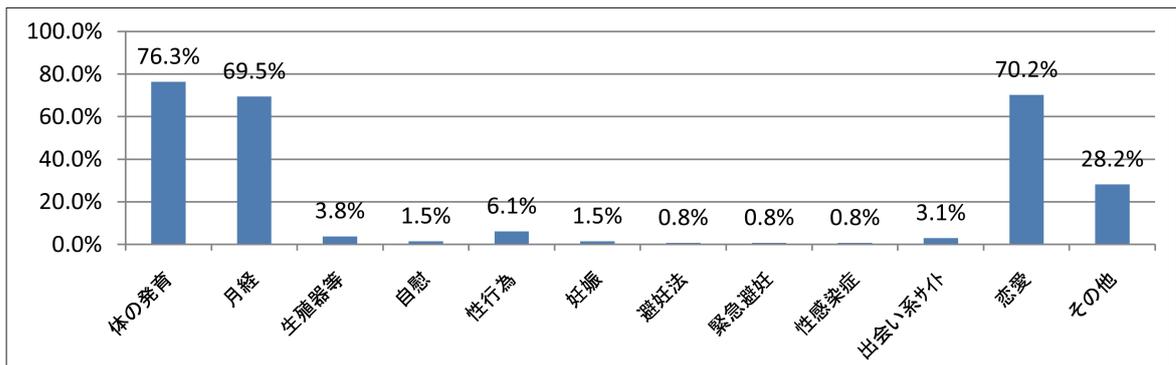
区分	回答数	割合
5人未満	12	9.2%
5～9人	21	16.0%
10～19人	33	25.2%
20～29人	25	19.1%
30～39人	13	9.9%
40～49人	7	5.3%
50人以上 <small>最大80人</small>	3	2.3%
無回答	17	13.0%
合計	131	

区分	回答数	割合
体の発育	100	76.3%
月経	91	69.5%
生殖器・生殖機能	5	3.8%
自慰	2	1.5%
性行為	8	6.1%
妊娠	2	1.5%
避妊法	1	0.8%
緊急避妊	1	0.8%
性感染症	1	0.8%
出会い系サイト	4	3.1%
恋愛	92	70.2%
その他	37	28.2%

【問6-1】

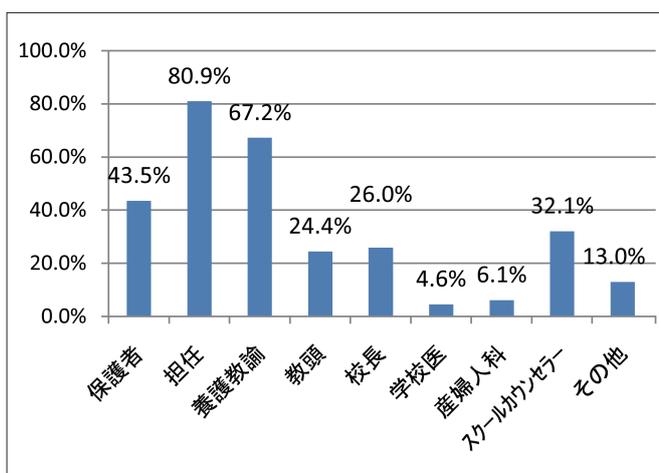


【問6-2】



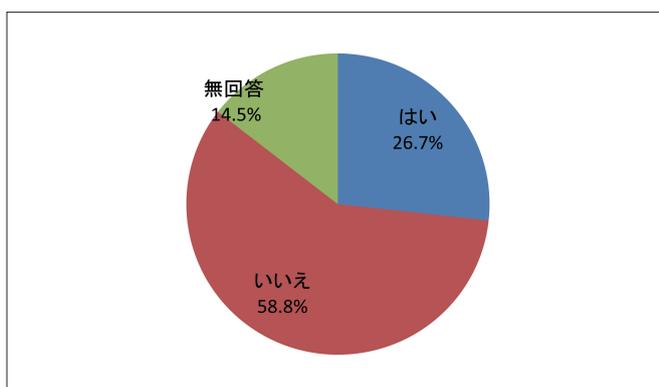
問6-4 保健室で生徒から相談を受けた時に、本人と誰とで解決策等を検討しましたか。(複数回答) n = 131

区分	回答数	割合
保護者	57	43.5%
担任	106	80.9%
養護教諭	88	67.2%
教頭	32	24.4%
校長	34	26.0%
学校医	6	4.6%
産婦人科	8	6.1%
スクールカウンセラー	42	32.1%
その他	17	13.0%



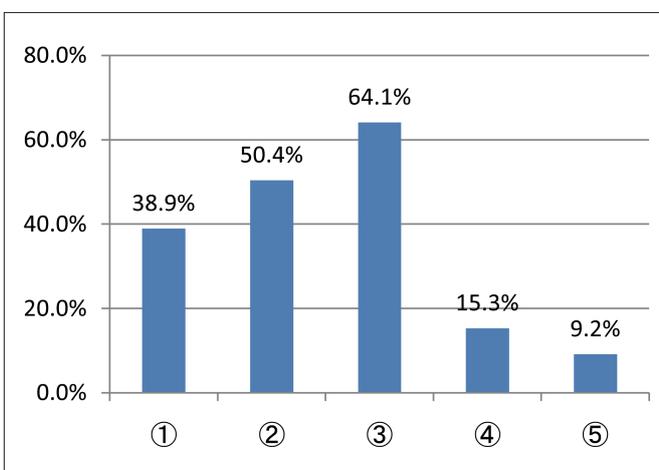
問6-5 学校で性教育に関する年間計画を立てる際、養護教諭は参加していますか。 n = 131

区分	回答数	割合
はい	35	26.7%
いいえ	77	58.8%
無回答	19	14.5%
合計	131	



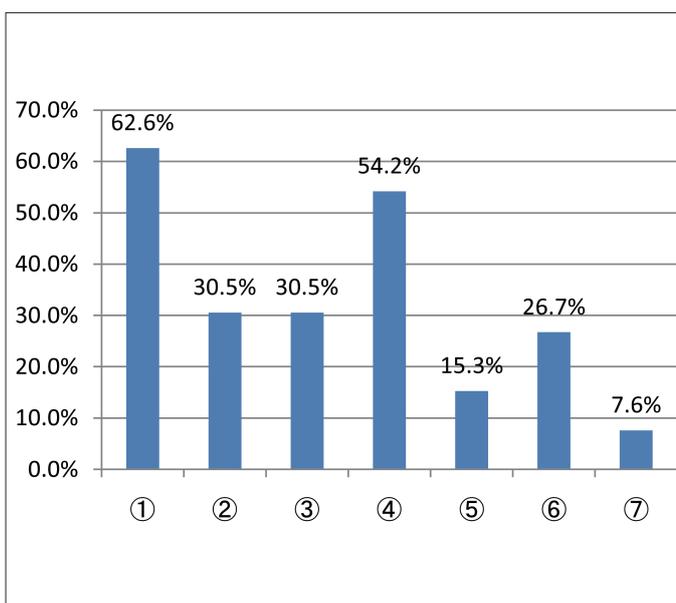
問6-6 学校内で養護教諭が性教育を実施する際の課題は何ですか。(複数回答) n = 131

区分	回答数	割合
①保健室を空けられない。	51	38.9%
②校内での指導方針が定まっていない。	66	50.4%
③十分な時間確保が困難。	84	64.1%
④子どもたちの実態に即した専門的知識に乏しい。	20	15.3%
⑤その他	12	9.2%



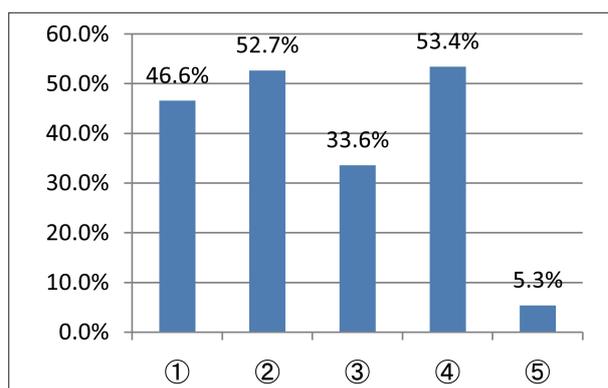
問7 中学生への性教育の課題についてあてはまるものを下記からお選びください。(複数回答) n = 131

区分	回答数	割合
①生徒の知識レベルに差があるため、集団指導では限界がある。	82	62.6%
②メンタル面での指導が不十分。	40	30.5%
③学級担任、保健主事、保健体育科教諭、養護教諭など学校内の職員の連携が不十分。	40	30.5%
④校内での性教育の方針が定まっていない。	71	54.2%
⑤保護者との連携が不十分。	20	15.3%
⑥個別の問題が複雑・多岐に渡るため、学校内での問題解決には限界がある。	35	26.7%
⑦その他	10	7.6%



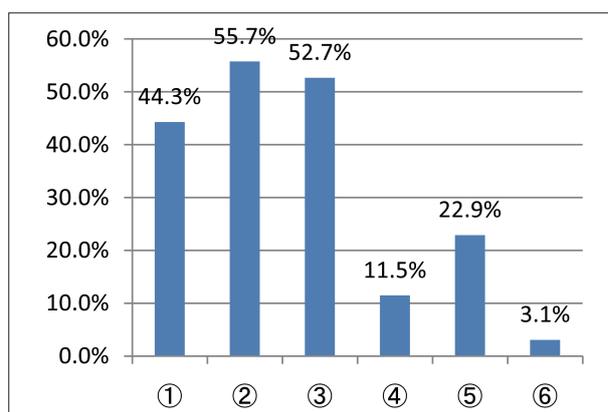
問8 問7に対して、学校内で取り組む効果的な対策は何だと思われますか。(複数回答) n = 131

区分	回答数	割合
①外部専門講師による講演会	61	46.6%
②「命の大切さ」などを学ぶ機会(乳幼児とのふれあい体験等)の提供	69	52.7%
③生徒の考える力を育むためのグループワーク等	44	33.6%
④職員向けの研修会の実施	70	53.4%
⑤その他	7	5.3%



問9 問7に対して、学校外で取り組む効果的な対策は何だと思われますか。(複数回答) n = 131

区分	回答数	割合
生徒がいつでも相談できる24時間相談ダイヤル等相談窓口の設置	58	44.3%
家庭での情操教育	73	55.7%
保護者への教育	69	52.7%
産婦人科での個別指導	15	11.5%
ピアカウンセリング	30	22.9%
その他	4	3.1%



問10 生徒から「妊娠した」との相談があった場合、学校内での相談体制はどのようになっていますか。

問11 10代の望まない妊娠や人工妊娠中絶を防ぐためには、どのような対策が必要だと思われますか。

問12 その他、中学生の性に関する問題についてのご意見をお聞かせください。

広島県地域保健対策協議会 子育て支援専門委員会

委員長 田中 義人 広島大学大学院保健学研究科  
委員 小林 昭博 広島県健康福祉局保健医療部健康対策課健康増進室  
末田 明美 広島市こども未来局こども・家庭支援課  
平川 勝洋 広島大学大学院医歯薬学総合研究科  
堀江 正憲 広島県医師会  
益田 慎 県立広島病院  
松田 文雄 松田病院  
吉田 信隆 広島市立広島市民病院

広島県地域保健対策協議会 子育て支援専門委員会

思春期保健対策 WG

WG長 吉田 信隆 広島市立広島市民病院  
委員 河野美代子 (医) 河野産婦人科クリニック  
佐藤 博子 広島県健康福祉局健康対策課健康増進室  
末田 明美 広島市こども未来局こども・家庭支援課  
瀬戸真理子 瀬戸産婦人科医院  
中込さと子 広島大学大学院保健学研究科  
西村真一郎 広大大学院医歯薬学総合研究科  
原田 良三 広大附属中高等学校  
堀江 正憲 広島県医師会  
政藤 信夫 広島県教育委員会事務局教育部指導第三課  
松田 文雄 松田病院  
温泉川梅代 広島県医師会  
要田 豊 広島市教育委員会学校教育部給食保健課